

福岡城に天守閣を
— 城のある都市復活元年!! —

お城たより

2008年10月
No.19



復元された下の橋大手門(写真提供:福岡市教育委員会)



今年も九月二十三日のおおほりまつりの日には、西公園を出発した吉田市長扮する黒田長政を先頭に、戦国時代そのままの甲冑に身を固めた黒田二十五騎がNHK福岡放送局に到着し、勝ち鬨を上げました。荒津の舞や和太鼓も上演され、古くは鴻臚館の時代から遣唐使らが中国大陆を目指し、朝鮮通信使も上陸した千二百年にも及ぶ福岡の歴史と文化の奥深さを感じさせました。

おりしも、今年は、福岡市博物館で、「黒田長政と二十四騎」「黒田武士の世界」と題する展覧会が黒田長政生誕四百四十年を記念して開かれています。父孝高は、播磨の国に身を起こし、秀吉に従つて、中國、四国、九州の平定に参加し、子の長政は、朝鮮出兵の後、関ヶ原の戦いでは、家康の東軍に参加して戦功をあげ、筑前一国を領する大名へとなりました。戦国時代を生き抜いた孝高、長政の歴戦がよく描かれた展示でした。

NHKの大河ドラマの主人公へという運動もあります聞いています。先日、姫路で開かれた黒田家にゆかりの都市の代表が集まる「黒田サミット」でも、こうした声があがつたそうです。
今に残る黒田二十五騎の勇姿と黒田家の歴史を振り返ると、四百年前の築城当時の福岡城の威風堂々とした姿は如何許りであつたろうかと石垣を眺めながら、思いをめぐらせていました。

「黒田二十五騎」

NH K 福岡放送局
局長 石田 研一

鴻臚館・福岡城を偲ぶお城まつり

平成二十年福岡城観月の宴



写真提供：読売新聞西部本社

恒例の観月の宴（読売新聞西部本社・鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会主催）は、中央区舞鶴公園西広場で九月十五日夕開催されました。宴に参加される皆様を導く灯明四百基は、福岡教育大附属福岡小学校児童の作品でした。

今年、初めて公募したかぐや姫よりの献酒、琴の調べにのせて月の出を待ちながら、行事は進行して行きました。それでもお客様のアツイあつい願望に、二十時半すぎやつと月が一瞬顔をのぞかせました。思わず舞台よりもお月様に拍手です。

総勢二千七百人の参加をいたいた宴もほんのひとときの月の出に感謝しながら散会となりました。

構想三年を経て、今年盛夏の八月四日、読売新聞西部本社一階よりプラザで開講式を迎えることができました。チラシを数回取り上げて頂き、当初六十名募集予定の処を反響の大きさ問い合わせの多さから八十名に増加し、市民の期待にこたえるべく会場担当の方にお願いしました。ご理解と協力に心地よく応じられた文化事業に対するモチベーションの高さに関心しました。

講師をお願いした各先生方は社会のニーズに適合した教養講座であり、市民の求めるものであるとの共通認識によつて福岡市の持つ豊富な文化資源の掘り起しをして活性化につとめようといろいろ教示して下さいました。その間市民の方々からは応募数が激増し、事務局員はお断りの言葉に苦労するという一面もありました。種々の曲折をえてどうしても受け入れ不能の方には来年度受講をお願いしました。最終的には会場一杯の百名の方々と、項目により受講された方々約二十名の申込みに応ずることになり、二十二回、四ヶ月超ました。これまでの出席率は九十

パーセントをこえ、皆さんの熱意に驚いている現状です。より濃密な市民生活に直結した歴史・福岡市に遺された豊富な資源（遺跡の発掘や歴史遺産の保存整備・民間伝承による郷土芸能の数回取り上げて頂き、当初六十名募集予定の処を反響の大きさ問い合わせの多さから八十名に増加し、市民の期待にこたえるべく会場担当の方にお願いしました。ご理解と協力に心地よく応じられた文化事業に対するモチベーションの高さに関心しました。

何を学び、何を残し、何を伝えいくべきか、話題はつきませんが、受講者の真剣なまなざしと熱意あふれる受講態度は教育関係者にみせてあげたいと思うほどです。

いろんな質問や新資料の提供など活気にあふれた講座はきっと福岡市の活性化につながります。できなバアチャン、ジイチャンがお孫さんに語り広げていかかるでしょう。

あと一ヶ月余元気な受講を待つてます。（津田慶一）

福岡歴史観光市民大学・中間報告

福岡城探訪

福岡藩を守り通した黒田長政

藤
金之助



黒田長政の肖像画(部分・福岡市博物館蔵)

或る時、如水は長政に向つて「お前は、わしより優れたところがいくつもある。」として、「わしは信長、秀吉の機嫌をそこねて二度頭を丸めて謹慎したが、お前は家康、秀忠の御意にかなつてうまくやっておる。また、わしは一生十二万石、お前は五十二万石である。さらにお前は度々、功名をあげているが、わしは自分で武功をあげたことがない。そしがお前に勝ることが二つある。一つは人使いであり、次にバクチ上手である。お前はバクチが下手だ。」

如水は智謀の人、長政は武勇の人で、右の説話は「子を見ること親にしかず」で、親子でもずいぶん性格が違つていたことをよく物語つている。

如水のいう無分別とは、謀反を起した荒木村重を説得すべく、自身伊丹城に乗りこみ失敗、信長を激怒させたことや、朝鮮出兵の折、浅野長政と碁を圍み、石田三成の憤慨を冗い、秀吉の勘気をこうむつしたことなどである。

バクチとは本能寺の変ですばや

く毛利一族と講和し、秀吉に中国大返しを進言、山崎の戦いで明智光秀を破り、秀吉の天下を築いたことや、関ヶ原の戦いをチャンスに九州を制覇、天下取り貌つたことを指すのである。

今年、八月姫路市で行われた黒田サミットの会場に数多くひるがえつた幟には「その男、天下に秘する野望あり。」と墨痕鮮やかに書かれていた。姫路が生んだ黒田官兵衛のことである。

長政は永禄十一年(二五六八年)に姫路で生まれた。松寿丸といった十歳の時、悲劇が起つた。父の如水が荒木村重の説得に行つたまま消息をたつたのである。如水が村重に同心したと誤解した信長は、秀吉のもとで人質になっていた松寿丸の殺害を命じたが、軍師、竹中半兵衛の手で秘かに美濃の山奥に匿まわれる。恐怖のなか長政は子供心に権力者の力と非情さを身にしみて味わつたであろう。このことが長政の一生を通じて影を落としたものと思われる。

豊前時代、手を焼いた宇都宮鎮房と和議を結びその娘鶴姫を正室として迎えたが、鎮房誘殺後、鶴姫も処刑するという悲惨な結果を招く。その後、秀吉の命により蜂須賀小六の娘をめとり一女をもうけるが、これも関ヶ原の戦いを前に家康の要望により離縁、養女の栄姫を迎えて、やつと安定した家庭を持つという政略結婚を強いられている。

あまりにも偉大な父を持つた長政は、よく側近に「自分は十四歳の時に初陣して、こんにちまで数々の戦功があつたが、如水の子であるということで、いつも父と比較されて一向に目立たなかつた。」と口惜しがつたといふ。

長政は青年時代より秀吉に従つて戦陣の日々を過し、朝鮮の役でも目覚ましい働きを見せた歴戦の勇将であり、関ヶ原では抜群の功績が認められて五十二万石の大守までなつた。

戦国時代第一級の武将である。

長政は永禄十一年(二五六八年)に姫路で生まれた。松寿丸といった十歳の時、悲劇が起つた。父の如水が荒木村重の説得に行つたまま消息をたつたのである。如水が村重に同心したと誤解した信長は、秀吉のもとで人質になっていた松寿丸の殺害を命じたが、軍師、竹中半兵衛の手で秘かに美濃の山奥に匿まわれる。恐怖のなか長政は子供心に権力者の力と非情さを身にしみて味わつたであろう。このことが長政の一生を通じて影を落としたものと思われる。

また重臣、後藤又兵衛が脱藩した後、大阪の陣で豊臣方に加担したことで家康に疑われ出陣を拒否され、十三歳の忠之が病気をおして参戦したということもあった。

加藤、福島など豊臣恩顧の大名が次々と潰されるなか、ひたすら黒田家を守つた黒田長政の姿に現代人としては深い感銘を覚え、むしろ人間味あふれる親しみと共感を持ちたい。

長政は元和九年八月四日、京都報恩寺で死去、五十六歳、長政の遺言を守つた福岡藩は明治まで二七〇年続いた。

(参考)柳猛直著「黒田三百年ほか」

新規会員名簿(平成20年10月24日現在)

松原 勉

一般会員(個人)

高島坂小梅石

松原 勉

正会員(個人)

正会員(個人)

高島坂小梅石

<p

第二回 お濠端会

九月五日(金)よみうりプラザにおいて三度目のお濠端会を開催いたしました。

今回は、母里太兵衛末裔の母里忠一氏に卓話ををお願いし、柳生新影流兵法の実演とお話をうかがいました。刀の言葉として現在も使われているもの「せつづばつまる」・「切羽(刀の柄にある薄い金物)」「しのぎをけずる」・「鎬は刃と峰との間の小高い部分」「つばぜりあい」・「刀のつばで押し合うこと」等、貴重なお話をでした。

参加者からの一言

・新ビルの上から見ると福岡城内は広い。

・大河ドラマに黒田如水はとの声があるが、単発のドラマとして考へてみるとヒロインが問題? 東京から来て、時代を感じられる福岡であるが、自分たちの文化や歴史を知らせることができ必要では?

・人の動きが激しい街。県民、地元の人間があまり動かない。

・地元福岡に対する郷土愛をもつと豊かにもつていきたい。

・地域の伝統文化、特に言葉に誇りを持つ事が大切だと思

う。

・会議後、なごやかに懇談いたしました。



復元された、下(しも)の橋大手門 写真の説明

【福岡城・下の橋大手門】

この門は下の橋にあつたので「下橋御門」とか「西御門」と呼ばれていました。

門の配置形式は柵形門と呼ばれ、門を入れると柵形(正方形)に配された石垣の壁が右に曲がり、戦いの際には城の防衛に有利に造られています。

また、櫓門の二階から博多湾を眺望できたので、別名「渦見(うずみ)門」とも呼ばれています。



復元前の再現予想看板図と見比べて下さい。

【潮見櫓】について

①本当の潮見櫓の位置は北の丸の北西の角にあり、明治時代に崇福寺仏殿として移築されていましたが、現在は解体され部材のみ保管されています。

②下の橋大手門の横に「伝潮見櫓」が現存しています。この櫓は本丸への入口の一つである本丸裏御門の横にあつた「古時打櫓」または伊之助櫓」との説が有力です。もともと下の橋大手門の横は、上の模型の写真のように空地ではありませんでした。

編集・発行:
鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

住所:
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15
読売福岡ビル7階

TEL:092-716-8238
FAX:092-716-8254
HPアドレス:
<http://fukuokajokorokan.npgo.jp/>
E-mail:
fukuokajo@tos.bbiq.jp
デザイン・印刷:(株)セブンプリンティング

お城だより十九号をおとどけます。
来年は二〇号を迎えます。この活動を始めて約五年の歳月が流れました。会員の方々の暖かいご支援によりここまで歩んできりましたが一つの節目を迎える時が来たのです。多く行事やイベント、市民大学など忙な昨今ですが、会員の皆様のご意見に耳を傾け、より充実した会にしていきたいと思います。事務局も努力してまいりますが、今後ともご協力よろしくお願ひいたします。

編集後記

卒業試験は自己採点で 担当 津田拝

この稿を読まれた方々はぜひ受講者に説明の機会を作つてやつて下さい。知る楽しみから、語り合う楽しみに、そして誇りうる我が故郷福岡を大事にしまり継いでください。

この講義に少年のような真剣な瞳を向けて、一言も洩らすまいとする受講者の態度はすばらしいの一言につきます。この四ヶ月余、毎週月曜日に通学され、無欠席で受講し、現地研修で福岡市内の文化遺産にふれ、故郷への思いを蓄積された皆様、資料を大切に生かし、誇りを持って友人、知人に語り継いでください。

福岡歴史観光市民大学の終講式は来る十二月八日の月曜日午前十一時からよみうりプラザで実施の予定です。な講義に少年のような真剣な瞳を向けて、一言も洩らすまいとする受講者の態度はすばらしいの一言につきます。この四ヶ月余、毎週月曜日に通学され、無欠席で受講し、現地研修で福岡市内の文化遺産にふれ、故郷への思いを蓄積された皆様、資料を大切に生かし、誇りを持って友人、知人に語り継いでください。